



見沼たんぼくらのイベント

見沼ふれあい農園づくり 里芋・八つ頭・生姜栽培

雲ひとつない青空のもと、収穫祭が11月15日(木)緑区見沼の畑で盛大におこなわれました。参加者は見沼たんぼくらぶ会員26名と福祉団体等58名の総勢84名でした。

今年の芋の出来栄は例年に比べて里芋は型は小さめだが、量はそこそこに穫れ、八つ頭は成長が芳しくなくほとんどが三つ頭の大きさで、良くありませんでした。

8月2日と10月25日に収穫した生姜は順調に成育

し大量の収穫となりました。



福祉団体の

(社福)久美愛園、(社福)ななくさ大谷作業所、(社福)さくら草、(NPO)ともに生きる会さんご、(社福)久喜けいわの5団体と、こぐま保育園の皆さんにはそれぞれ里芋一畝、八つ頭一畝の収穫を楽しんでいただきました。

(三上 雅央記)

第九回清掃ボランティア

好天に恵まれた11月3日の文化の日に、秋の恒例となった見沼たんぼ清掃ボランティアがさいたま市北区の見沼グリーンセンター周辺で行われました。

清掃は見沼グリーンセンター正門前を起点に、風車のある見晴らし公園周辺を全員で、その後芝川沿いの神明下橋から石橋までの約1キロを二班に分かれて、正門前に戻るコースで行われました。

参加者34名で回収した廃棄物は車のバンパーやペットボトル、空き缶などが多数ありました。2時間弱の活動終了後、飲み物とNPO法人見沼ファーム21が見沼たんぼで無農薬・有機肥料で栽培した新米「ミルキースター」が参加者に手渡され解散となりました。



参加者の1人の方は「職場の先輩に聞いて初めて来ました。清掃活動が終わった後、係の人がお疲れ様ですという言葉が掛けてくれただけでとても晴れ晴れとした気分になれました。また機会があればこのような活動に参加してみたいと思います」と語ってくれました。また、グループで来た別の方は「何気なく見ていた川や公園に隠れていたごみがありました。このようなボランティアをやらなかったら気づかなかったと思う」など語ってくれました。(三上 雅央記)

見沼たんぼくらのイベント

見沼ふれあい農園づくり秋野菜収穫

11月10日(土)10時より晴天に恵まれて、2号農園(さいたま市緑区見沼)において秋野菜の収穫が実施されました。参加者は96名で、その内子供は32名でした。第1回の9月1日(土)の種蒔以降、3回の除草・間引・一部の収穫を経てこの収穫日を迎えました。

今年は種蒔後、台風・長雨などの影響から発芽不良や虫害があり種類によっては全滅するものが出ました。そのため2回の作業日に再種蒔も実施していますが、蕪(4種)・小松菜・大根(2種)・水菜は残念ながら収穫を諦めざるを得ませんでした。結果として収穫できたのは青首大根・春菊・法蓮草だけとなりました。

幸いなことに、この3種はその後の懸命な作業により、かなり順調に成長しました。写真は収穫日の法蓮草です。収穫されたこれらの収穫物は当日の参加家族単位に等分に区分けして持ち帰り頂きました。昨年度のように福祉施設に対しで穫物をお分けする余裕はありませんでし



た。参加者の中から、天候・自然を相手の農作業であり、予想もしない変動にも対応する農家の方々の苦労は並大抵でないだろうことを実感した旨の感想も聞かれました。

本年度の参加延べ人員は418名であり、1回当たり平均参加人員は84名でした。第4回目の作業日が雨天のため翌日曜日に順延したことも影響しています。子供の1日当たり平均参加人員は29名と丁度1/3に相当します。子供たちは初体験の農作業を一生懸命努めていました。なお、皆勤者は11名を数えます。

参加された皆様方に感謝致しますと共に、心からお疲れ様を申し上げます。(若野 忠男記)

見沼ふれあい農園づくり

園児のコスモス花摘みとさつま芋掘り

水色に澄んだ秋の空が高く晴れ上がる11月1日(木)に緑区見沼のコスモス畑でこぐま保育園児による花摘みとさつま芋掘りが行われました。

コスモスは畑一面に咲くイメージで7月上旬に種蒔をおこなったのですが、除草が行き届かなかったせいか雑草と一緒にあってあちこちにまばら咲きになっていました。

それでも5歳・6歳の園児達は、畑の中を走り回りながら「おうちに帰ってママにあげるんだ」などと言って、赤や黄や白のコスモスを摘んだり、虫を捕まえたりしながらはしゃいでいました。



さつま芋栽培は試験的に3畝100苗(紅あずま)を5月下旬にコスモス畑の西隅に植えました。育っていない苗もありましたが、除草作業等の手間を少ししかかけていないにも拘らず概ね収穫することができました。芋は大きめなものは少なく小ぶりなものが多くありました。

19人の園児達は先生や当くらぶ役員の指導を受けながら、「ここにもあるよ」「なかなかぬけないよ」などとキャッキョ言いながら夢中になって芋を掘っておりました。

子供たちが毎年この場所で花を摘んだり芋を掘ったりして楽しんでくれば、成長した時に見沼たんぼで遊んだ記憶が残ってくれるのではないのでしょうか。(三上 雅央記)

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

第75回見沼の自然と史跡を訪ねて

常泉寺・広島 長崎の火…加田屋
新田・ヒガンバナ…旧坂東家住宅

9月24日、参加者51名が6班に分かれ、自然観察指導員のガイドで、大宮台地染谷支台から加田屋川低地まで歩いた。取材のため埼玉新聞社の記者も同行した。

常泉寺は徳川家康から寺領10万石をいただいた曹洞宗の古刹。



▲「広島・長崎の火」モニュメント

生命の尊厳を訴える異色の寺院。原爆が投下された広島と長崎の焼け跡に残された恨みの火、反核の火が住職によって灯され続けているモニュメント。

朝鮮人慰霊碑は、関東大震災の折、当染谷地区で噂に踊らされ、無実の朝鮮人が殺された。その死を悼んで建立された墓碑。

蓄霊の墓は大きな供養塔の周りに飼い犬や飼い猫の墓が名前も刻まれてぎっしり並んでいる。



▲ 朝鮮人慰霊碑

加田屋川低地に降りた。緑一色の斜面林 — 黄金の稲穂たなびく水田 — 朱赤色に燃えるヒガンバナ群生地。まさに、見沼たんぼの原風景だ。



▲ 彼岸花と稲田

NPO法人見沼ファーム21の県民参加型水田は無農薬栽培を始めた。そのお蔭で、絶滅危惧種のキクモ・サンショウモ・ミズワラビが自然復元した。

「これ可愛い花ね。」と人気の湿性植物は、紅紫色の小さな唇形花を咲かせていたキクモだった。当地のヒガンバナは、公園と違い、自然のまま多様の野草と共生し、すっと立ち上がる姿が頼もしい。



▲ 旧坂東家住宅

ゴールの旧坂東家住宅は、1657年(安政4年)の建造物。木造平屋・茅葺で東西30m・南北14m・床面積286㎡もあり、当時としては大きな住宅である。

(小野 達二記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

笹丸観音堂（さいたま市見沼区笹丸）

大宮駅東口からバスで、染谷入口から徒歩2分のところにある観音堂で、新秩父観音霊場の第1番札所となっている。徳川時代から続く常泉寺の末寺で平成2年新築完工、鄙びた石塔が併設されている。

私がスケッチに伺った日、13:30から約20人の笹丸町会の人々が集まってラジオ体操が行われていたが、この体操会は毎日欠かさず続けられている由。



絵と解説 八木一郎



埼玉県立歴史と民俗の博物館

大宮公園にある県立博物館は、縄文時代から現代までの展示がされている。

また、「ゆめ・体験広場」にある埴輪などの工作物実習をすることも出来る。左の画面は正門を入ってすぐのところ、園内で発見された弥生時代を復元した竪穴住居。

井沼弁財天「宗像神社」（見沼区新右衛門新田）

宗像神社は1728年（享保13年）見沼干拓によって造成され、芝川の左岸にひっそりと鎮座する。干拓に携わった内倉新右衛門らが1760年（宝暦10年）辨天社として創建したといわれる。

新右衛門の娘には恋仲になった若者がいたが、見沼の龍神に見初められたことを苦に病んで三日目に死んでしまった。若者は悲しんで僧となりこの場所に庵を建て冥福を祈るとともに、永く村のために尽くしたという。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

合併記念見沼公園の管理事務所

作者 落合 秀行



この公園は2006年（平成18年）に開園され、広さは約3.9ヘクタール。中央通りに面する「自治医科大学大宮医療センター」のすぐ脇に位置し、さいたま新都心の高層ビルも一望出来ます。

公園内のこの管理事務所は、孫たちが幼かった頃に昆虫や動植物の図鑑で学び遊んだ思い出の多い場所です。散歩のたびに、鮮やかなライトグリーンの下が映えるこの建物を描いてみたいと思っていました。

そしてこの5月、その思いが叶いました。木々の若いみどりと明るいひざしが織りなす「光のシンフォニー」を絵にしてみました。

見沼たんぼ探訪記

大宮駅の歴史をたどる

見沼たんぼへの最寄駅の一つに「大宮駅」がある。この駅には東北新幹線や上越新幹線を初め12路線が乗り入れている。この「乗り入れ路線数」は東京駅に次いで全国第2位だ。

歴史を調べると明治16年、上野～熊谷間の路線が開業したが、浦和駅の次の駅は上尾駅で、大宮には駅は設けられなかった。当時の大宮町長・白井助七は地元の有志と共に駅の誘致運動を行い、明治18年に大宮駅の開業に至る。

また、東北本線を建設するに至り、その分岐地として浦和、大宮、熊谷の3案が挙げられたが、最終的にはアメリカ人技師・クロフォードや鉄道の父・井上勝等の意見により大宮となる。

さらに主な歴史をたどると昭和4年、北総鉄道の大宮～春日部間（後の東武野田線）開業。昭和7年、京浜東北線赤羽～大宮間延伸開業。昭和15年、川越線開業。昭和57年、東北新幹線大宮～盛岡間・上越新幹線大宮～新潟間開



業。昭和58年、埼玉新都市交通大宮～羽貫間開業。昭和60年、東北新幹線・上越新幹線上野～大宮間が延伸開業し、新幹線始発駅は上野駅に移行。平成26年、北陸新幹線開業に合わせ中央通路のリニューアル完了。

最後に1日平均乗車人員は下記の通りで、県内最大のターミナル駅である（平成28年現）。

J R 東日本在来線	252,769
同上新幹線	29,866
東武鉄道	67,395
埼玉新都市交通	22,966

(召田 紀雄記)

みどりの祭典

みどりに親しみ、みどりから学び、みどりを守りそだてましょう！これが15回も続いている。さいたま市みどりの祭典である。今年も10月21日の良く晴れた一日、5000人を超える参加者であった。

毎年の会場となる、市民の森・見沼グリーンセンターはJR土呂駅から近く、広大な芝生の広場やリスの家などもあり、通常でも家族連れなど多くの人で賑わう場所である。今年も20近くに参加団体がそれぞれのブースを使っての特徴ある企画が発表された。

「モノづくり」といった言葉が使われ出してから久しいが、今日では年齢や体力に関係なく複数でも参加できる体験型が人気を集めている。

かつては家族で旅行に出かけても、父親はゴルフをして子供達は遊園地で遊んでいるといった行動パ



ターンが多かった。

人が何かの催しに集まるパターンには三つの段階があるとされている。

音楽を聴くためとか発表を見るために集まるのは参集型である。竹細工で作品を作ったり押し葉やスケッチなどを体験するのは参加型である。この段階からスタッフの手伝いをしたりし、やがてはクラブに入会をしてしまうように発展するのが参画型と言われている。

主催をする側も人寄せだけにこだわることはなく当初の発想であった「緑」を掲げる意味合いを大きな柱として、多くの市民に愛される祭典として継続してほしいものである。

(佐々木 明男記)

見沼たんぼの仲間たちNo. 48

NPO法人自然観察さいたまフレンド

代表理事 小野 達二

設立：1991年（平成03年02月）

法人認証：2006年（平成18年04月）

会員数：112名（女性60、男性52）

年会費：¥3,000

- ◆ 見沼たんぼくらぶ団体加入第1号
見沼たんぼくらぶ個人加入18名

見沼たんぼで毎年継続行事紹介

I 自然観察会

1. 見沼たんぼ緑地の自然観察会
第1回 1991年5月
第251回 2018年10月
2. 見沼の自然と史跡を訪ねて
見沼たんぼくらぶ主催、当会ガイド
第1回 1999年11月
第75回 2018年9月

II 環境調査

1. 早起きバードウォッチング・月例
第1回 2000年8月
2. 芝川低地水環境調査・月例→隔月
第1回 2004年5月



▲ 木崎自然の森 植生調査

3. 生き物モニタリング調査・月例

* 埼玉县委託事業

第1回 2009年5月

4. 自然緑地の植生調査・年1回

* さいたま市委託事業

（特別緑地保全地区指定の樹林地）

III 環境教育体験学習サポート

1. 大宮東小学校学年総合学習・年1回
第1回 2006年6月



▲ 大宮東小学校総合学習

2. 芝浦工業大学環境調査授業・年1回
第1回 2003年6月

IV 協働事業

1. さいたま市みどりの祭典・年1回
第1回 2004年10月
2. 見沼区ふれあいフェア・年1回

連絡先 〒337-0053 さいたま市
見沼区大和田町1-2124-3
☎&FAX (048) 683-1764
E-mail:t.ono@axel.ocn.ne.jp

見沼たんぼを支える農家さん

「中村農園」中村俊子さん

春岡小学校の西隣、道路を挟んで、店頭にお花が並んだカフェのようなかわいいお店があります。ここが、中村俊子さんが3人のパートさんと切り盛りしている中村農園の直売所です。

カラリとドアを開けると、俊子さんがこだわったという漆喰壁の柔らかい色合いの中で、木製の棚に並んだ色とりどりの瑞々しい野菜が迎えてくれます。入ってすぐが野菜コーナー、その左手が手作り小物のコーナーになっています。訪ねた時はちょうど、自宅でパン教室を開いている方が手作りパンを販売している日で、焼き立てのおいしそうなおパンも並んでいました。



(野菜コーナー)

元々は普通に市場に出荷していましたが、15年前、農業大学を卒業した息子さんの「僕、直売所やりたい」の一言がきっかけで直売を始めたそうです。昨年10月に改装するまでは、納屋のひさしを利用してハウス用のビニールで囲ってお店とし、スタート当初は1日5人ほどだったお客さんは次々に増えて、今では多い日は100人ほどに。

お客さんの希望に応じていろいろな種類の野菜を長い期間にわたって収穫するためには、元々の農地だけでは足りなくなり、息子さんが学生時代の友人と蓮田の耕作放棄地を活用して栽培を始めた畑は、今では3町歩程にまでなりました。

自宅では、お父さんとおじいちゃんがトマト

やゴボウ、芋類などを生産。紫白菜やカリフラワー、ケールやコールラビ、サボイキャベツなどの新顔野菜は息子さんと三世代が協力して生産しています。

置いてある野菜はすべて収穫後24時間以内のものばかり。鮮度は抜群です。



(小物コーナー)

いつも四季折々の季節感を大切に、お客さんやパートさんの声を生かしてお店のプランを考えている、という俊子さん。



(中村俊子さん(右)と
レジのベテラン熊谷さん)

夢は、近い将来、小物コーナーの一角にプチカフェを併設して皆が集える場所を作ること。広い窓から晩秋の日差しが柔らかく差し込んでいました。

取材 : 島田由美子・高橋いずみ

文責 : 高橋いずみ

中村農園 : 見沼区春岡 2-28-3tel : 048-684-4421

(営業日時 水・木・土・日 10:00~15:00)

見沼たんぼくらのイベント案内

第117回見沼塾『見沼たんぼの野鳥観察』

2月3日(日) 9時30分～12時

大宮第二公園休憩ロビー集合

講師：小峯 昇氏

(NPO法人自然観察指導員埼玉代表理事)

申込み：当日、集合地で9時から受付

参加費：無料

交通：大宮駅東口からバス⑧「芝川」下車北側

大宮発 8:35 or 8:55

または東武野田線大宮公園駅から徒歩約20分

第76回見沼の自然と史跡を訪ねて

3月23日(土) 9時～12時

JRさいたま新都心駅改札口の向い側集合

コース：新都心広場...上山口新田...

園蔵院のシダレザクラ...中山神社

申込み：当日、集合地で8時30分から受付

参加費：¥500(ただし、会員は無料)

会員の主催するイベント

第252回見沼たんぼ緑地の自然観察会

1月20日(日) 9時30分～12時

大宮第二公園休憩ロビー集合

主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド

テーマ別グループ行動

① 木の冬芽しらべ

② 野草の越冬スタイル

③ バードウォッチング入門

申込み：当日、集合地で9時から受付

参加費：¥500

見沼スケッチ会 第12回水彩画展

2月19日(火)～24日(日)

9時～17時・大宮図書館展示ホール

ただし、最終日は15時まで

◆見沼の風景を主なモチーフに約80点

問合せ：主宰者 八木 一郎

☎(048)822-5504

交通：大宮駅東口から徒歩約15分

氷川参道大鳥居の東側

見沼たんぼくらの入会を勧めます

見沼たんぼをもっと知りたい

見沼たんぼの自然にふれてみたい

見沼たんぼで何かしたい

見沼たんぼの保全に協力したい!

そんな皆さまをお待ちしています!

◆季刊『みぬま通信』を郵送します。

4月・7月・10月・1月発行

◆埼玉県土地水政策課の支援のもと、見沼たんぼ地域の里やまで、様々の体験事業を展開しています。子どもから年寄まで気軽に楽しめるイベントです。

○…見沼ふれあい農園づくり

農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。

「里芋・八つ頭・生姜栽培」や「秋野菜栽培」を楽しみ、福祉施設にも寄贈しています。

○…自然観察ハイキング

自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を巡りながら、花や鳥などを見て回ります。

○…見沼たんぼ清掃ボランティア

○…斜面林の体験学習

○…見沼塾―見沼たんぼ地域の自然や文化を学ぶ講座

◆年会費 個人(同居の家族単位)・団体・企業とも1口¥1,000以上
(団体・企業は3口以上)

みぬま通信第77号

発行日 平成31年月1月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048)683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2019 Minuma Tuusin